参考資料２

山部会開催報告

目　次

〇第３回山の地域部会報告：恵那 11/16 1

〇第１回ＷＧ開催報告概要：根羽 4/28 9

〇第２回ＷＧ開催報告概要：岡崎 5/19 10

〇第３回ＷＧ開催報告概要：恵那 6/16 11

〇第４回ＷＧ開催報告概要：豊田 7/7 12

〇第５回ＷＧ開催報告概要：根羽 8/24,25 13

〇第６回ＷＧ開催報告概要：岡崎 10/26,27 14

〇第７回ＷＧ開催報告概要：恵那 11/16,17 15

〇第８回ＷＧ開催報告概要：豊田 1/11,12 16

矢作川流域圏懇談会「第３回山の地域部会」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 11 月 16 日(金)
14:00 ～ 17:30

○開催場所：
上矢作農業集落センター　2F 集会室

○参加者：24 名（傍聴者含む）

(2)内容

【会議議事】

１．座長あいさつ
２．出席者紹介
３．今年度の山部会活動報告
４．話し合い
(1)全体会議に向けた活動のとりまとめ
(2)来年度以降の山部会運営方針

会議風景（１）

会議風景（２）

2. 主な会議内容

第３回山の地域部会では、これまでの山部会ＷＧの活動報告を行った上で、２月に開催を予定している全体会議に向けて、今年度の到達点及び山部会の３ヶ年の活動成果のとりまとめ、来年度以降の山部会の運営方針について意見交換を行った。会議で話し合われた内容は以下のとおりである。

- 全体会に向けた活動のとりまとめとしては以下のように話し合われた。
  - 山村再生担い手事例集では、今年度に事例リストの地域バランスを補正して骨子を作成するものとし、作成グループの人選をまずはおこなっていく。
  - 森づくりガイドラインは、今後のワーキングで意見をもらい、今年度骨子を作成する。
  - 木づかいガイドラインは、項目の絞り込みを行うこと、どのようなメンバーで行うかを検討する。
- 来年度以降の山部会の運営方針は以下のように話し合われた。
  - 山村再生担い手事例集は、根羽村の担当に南木氏に決定した。恵那、岡崎については今後、選定する。また、事例集のイメージは、行政や自治会、農業・林業組織の取り組みも網羅し、１年ごとに作成・更新していくものとする。
  - 森づくりガイドラインは、地域の事情も加味しながら、広い範囲の人たちが合意できるような区分といったことも考えていくものとする。
  - 木づかいガイドラインは、各自治体や製材所、建築者などもメンバーに入れること、とよた森林学校との連携を図ること、流域圏を共通認識するイベントを開催すること、森林環境教育や地球環境温暖化の視点も考えるなどの意見が出され、項目の絞りこみに活かしていくことになった。

3. 議事概要　（・　ご意見、提案　　➢　回答）

（1）座長あいさつ　東京大学大学院生態水文学研究所長　蔵治光一郎

（2）出席者紹介

（3）今年度の山部会活動報告

事務局より、今年度の山部会の活動報告を行った。その上で、活動に参加された人たちから感想を頂いた。

- 活動の大きな収穫は、新しい人たち、いろいろな活動をしている人たちの活動が目に見える形で紹介してもらい、現地に入ってそれを見ることができたことである。（稲垣）
- ここに出席しているメンバーは市民企画会議やワーキングにも参加しているので、意思疎通は十分に図られていると思った。これをどのような形にするかということが今後の課題だと思う。山で生きている人間たちの思いがきちんと反映されるような結果をもたらしたいと思っている。（黒田）
- このような発言出来る場ができたので、自分たちの課題を知ってもらいたいし、現場も見てもらって、その中から上下流の人たちで共通認識を持ちながら課題解決できていければいいと思う。（今村）
- 行政と市民レベルが一体となる会議はなかなかないし、現場へ出向いて実際のものを見ながらという会議も今までなかったので、今後の展開の中でいいものが得られるのではないかと思う。（小木曽）
- これまでは半信半疑で取り組んできたが、ドイツのフォレスターの話を聞いて流域としてものを考えていくことの大切さを感じた。ドイツでは流域でものを考えており、山にくっついたところに製材工場、木工所、いろいろな中規模の工場があって、全部そこで完結するという形をとっていること。水とか土砂流出や侵食防止機能、子供の遊び場であったりトレッキングの場、なおかつ材木であったり食糧であったりという機能を考えながら林業を行っていく必要あることを強調されていた。（大島）
- 林業というと一次産業を活性化することが一番有効になってくると思っている。その中で、恵那市では森林環境教育を進めており子供に森の健康診断等をやっている。今はサラリーマン世帯が増えて山や林業に関する興味が薄れているので、子供のころから森林環境教育をするのが重要だと思う。（安藤）
- 豊田市でいうと、林業だけで解決できないところがあって、森を産業的側面で捉える面と、環境面で捉える側面、それから定住とか限界集落とか山村振興の話と結びつけて考えることが重要ではないかと思う。また、自治体の壁が非常に強くあるので、こういう部会とかを通じてその壁が少しでも取り払われればいいと思う。（原田）
- ワーキンググループの大きな課題となるＩターン者等の若者の問題、林業関係に従事する若者の定着というものが林業界を支えてくれる大事なキーワードになると思う。そのため、若者にぜひとも次の世代を担っていただきたい。そのためには私たちのような事業体がこれからどういうことをサポートしたらいいのかを考えていきたい。（松井（保））
- 資料について、「豊田市の森づくりの現状について、現地見学をした上で、森づくりや山村振興の取り組みを紹介した上で」、を「紹介した。そして、各取り組みに対する意見交換を行った」というふうにしてほしい。１行目の終わりの「森づくりや山村振興の」ではなく

「について行政、地域、森林組合、市民の取り組みを紹介した」とすると、当日の趣旨がはっきりすると思う。「Ｉターンミーティング」という言葉が誤解を生みやすいので、「若者の」といったように名前を修正してもらえるとよい。（山本）

- ➢ 今日は、Ｉターンミーティングの提案をするはずだった丹羽副座長が、急遽参加できなくなったので、丹羽さんも含めて、新しいＩターンミーティングの名称を考えて御提案したい。（洲崎）

（４）話し合い

１）全体会議に向けた活動のとりまとめ

事務局より、山部会の全体的な活動の流れを説明した上で、３ヶ年間の成果である「山村再生担い手事例集」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の作成方針について、それぞれ洲崎氏、蔵治座長、今村氏より報告を行った。

〇山村再生担い手事例集について

- ・ 作成方針の提案は前回のＷＧでされているので、この方針自体は決定でいいか。いいとなると、岡崎や恵那、根羽についてよく分からないので各地域に１人担当がいると格段に作業が進むようなイメージがあるがどうか。（蔵治）
  - ➢ 各地域の担当がいるとありがたい。（洲崎）
- ・ それであれば、個々でメンバーを決めたいがどうか。まず、小木曽さんに伺うが、根羽村にそのような人材がいるか。（蔵治）
  - ➢ 今は思いつかないのでもう少し時間がほしい。（小木曽）
- ・ 候補メンバーがいればまた教えてほしい。骨子とはどこまでのものを言うのか。（洲崎）
  - ➢ 骨子は目次みたいなものではないか。事例のリストの地域バランスを補正できれば骨子と言っていいのではないか。（蔵治）
- ・ 山の問題を解決する担い手がいないことが山の決定的な問題であり、山村再生なくして山の問題の解決はありえないと地域部会で発言し、それが人づくりの問題と森づくりの問題につながっている。現状では、Ｉターン者が来て助かっている面はたくさんあるが、肝心の山の地元の人は息子に何を語っているのか、山村を再生しようと語っているのかという問題に切り込んでいかないといけないと思う。山に住んでいる人間たちが、自分の息子たちを呼び戻そうとか、町に出ていくのではなくてここにいろと言えるような山の村をつくろうということがここから生まれてくることを大変期待している。よそ者が努力したくらいでは山の問題はなんとかならないとかどろどろしたところから事例集が始まっていかないと都会の人ののっぺりとした事例集になりかねないのでもう一つ踏み込んでほしい。（黒田）
- ・ 今の意見は、来年度以降の活動に対する意見として整理したい。まず今年度は、骨子をつくるということでいいか。（蔵治）
  - ➢ いい。（全員）
- ・ 今年度中には、誰がインタビューをするのか、そのタイムテーブルや分担なども道筋をつけたいと思う。（洲崎）
  - ➢ まずは、作成グループの人選は避けて通れないと思う。（蔵治）

○森づくりガイドラインについて

- 内容については異論はなく、課題と提案の部分は、豊田市でも同じような悩みを持っている。基本的に、人工林には所有者がいて、その所有者の意向を踏まえないことには木は一本も切れないわけで、それを変えていくためのシステムや制度をどうつくったらいいのかを悩んでいる。また、人工林については国の制度も含めて動いているので何らかの仕組みができると思うが、それ以外の森については仕組みが難しいと思う。林業を産業的に成立させようという動きの中で、どう森を健全化していくのか。利用間伐より切り捨て間伐の面積が圧倒的に多い中でどうシステム化していくかが非常に問題だと思う。（原田）
- 流域の森づくりに関して、例えば、地形、地質、標高などの立地に応じこういう林にしたほうがいいということがまとめられるといいと思っている。（洲崎）
  - ➢ これは内容の２段落目に書いてあることが対応している。（蔵治）
- 今後の議論に期待したいと思う。（原田）
  - ➢ 流域圏の中で非常に大きな面積を占めている豊田市の森林施策とは、ぜひ連携、協力したい。豊田市以外の部分も含めて、矢作川全体のこの問題についてぜひ取り組みたいと思う。（蔵治）

○木づかいガイドラインについて

- ガイドラインを最終的にまとめる過程では、もう少し項目を絞り込んで、共通認識として捉えられるような概念みたいなものと理解しているので、詰め込みたい思いをもう少し昇華させて、固めて概念化する必要があると思う。二つ目は、県境の壁、市町村の壁をガイドラインは越えないといけないところが出てくると思う。公共建築物等木材利用促進法に基づく基本方針というのは都道府県ごと、市町村ごとにつくることになっている。都道府県は必ず県産材を利用しますと書くため、矢作川流域材を使いましょうというところとバッティングすることが必ず出てくると思う。それをどう乗り越えていくかというのが今後の検討すべき課題だと思う。また、ガイドラインをもう少し絞ったらという話だが、ガイドラインの考え方の部分と、参考になるような取り組み事例、あるいは研究者で取り組んでいる方の紹介などを分けて考えるとすっきりすると思う。（原田）
- 流域市町村の壁を越えなければという話をするとき、どうして流域で物を考えないといけないのかという共通認識を、各市町村なり各県なりが認識していないと、その議論はなかなか深まらないと感じている。そのため、流域で物を考えるという流域圏懇談会そもそものコンセプトをどこかで再認識していくようなステップを踏まえないとその壁は越えられないと思う。（原田）
- かつての矢水協の時代と比べると流域の意識が大分希薄になってきているということか。（蔵治）
  - ➢ そう思う。（原田）
- 水の恵みに対して昔ほど強い意識を持たなくなってしまっていると、それは市民１人１人もそうだし、行政で働いている人もそうだということか。（蔵治）
  - ➢ そのとおり。（原田）

・ 人間は自分たちが痛い目に遭わないと何も気がつかないところがあるので、平六渇水みたいなのものが来て、水資源の大事さに思い至るということでもあればいいのかもしれないが、そういうことがない状況で流域圏というつながりの必然性をどう示していくかということが、課題だと思う。（蔵治）

２）来年度以降の山部会運営方針

事務局より、来年度以降の山部会運営方針について簡単なアンケートをお願いし、休憩をはさみ、記載した内容について意見交換を行った。

〇山村再生担い手事例集について

・ 参加意向とその関わりでは、いろいろなキーパーソンや先進的なことをしている人を紹介できると複数の方が書いてくれている。それから、先程の各地域の担当の方について、根羽村は南木さんが担当してくれることになった。（洲崎）
  ➢ 頑張ります。（南木）
・ 市町村の取り組みは入れるのかという質問は、今のところ市町村の取り組みもターゲットに入れたいと思う。また、若者から現状を聞くという提案については、若者ミーティングでぜひきちんと取り組んでいきたいと思う。それから、受け取り手のニーズをくみ取るメカニズムということで、ターゲットをどう絞るかという非常に難しいところだが、考えていきたいと思う。それと、ボランティアでやるのは難しいのでないかという意見も頂いている。山本さんからは細かく提案して頂いているので紹介してほしい。（洲崎）
  ➢ 事例集については、25 年度版でいいと思う。まずもって、全くわかってないので、基本的にはその人に書いてもらえばいい。それと、自治区、自治会、農業関係の組織は入れてほしい。それから、豊田市の場合であれば森づくり会議とかあるので、その辺は取材が必要だと思う。（山本）
・ いずれは川や海の現場でもどこでどんな活動をしている人や団体がいるかすぐ分かるようにしたい。海、川、都市から１日だけたくさん人が集まるケースもこの事例集に取り上げてほしいという意見は、そのとおりだと思う。（洲崎）
・ 山本さんの意見だと、25 年度が終わったときにその冊子はできているということか。（蔵治）
  ➢ 発展させていけばいいと思う。（山本）
・ 年度末に集まったものを冊子にして、ホームページに随時アップしていって、年度末にまたその年度内にアップしたものを冊子に取り込むような格好で、年に１回決まって出すようなシステムができるといいと思う。（洲崎）
・ ボランティアでは厳しいという意見は、印刷費がかかるということ、実際に出向いて調査することになるとタダでそれを行うことは非常に厳しい気がする。具体的にこういう回数の取材をするという計画があればお金がだせるのか。（蔵治）
  ➢ 事務局も含めてみんなで協力し合う体制をつくり上げるのが基本なので、その中で議論しながら、どれぐらいなら協力できるかという形で議論した上で決定という方式になるかと思う。（溝口）
・ 流域再生調査の場合は、年度初めにいく場所を決めておいて、その季節になったら集まれる人が行くということで交通費だけは出してもらえた。（松井（賢））

- ➢ 難しいのは、お金があるとかないとかではなくて、お金を支出する名目というか仕組みが存在していないため、交通費を国交省が払えるかという話だと思う。（蔵治）

○森づくりガイドラインについて

- まず、区分の根拠は明確に示せるかという意見について、科学的な知見で森を見るとこうだというものは、ベース情報としては必要だと合意して頂けると思う。そのため、まずはつくるということはぜひ取り組んでみたいが、区分となるとそこには優先順位とか価値観がある程度入ってくるので、もっとたくさんの研究者の方の意見も聞きながらやりたいと思う。また、人工林の中で天然林化しようという場所が実際にありますという具体的な提案を根羽村森林組合から頂いたがそういう話しがあるのか。（蔵治）
  - ➢ いろいろとある。（今村）
- 林業一筋の根羽村でもそういうことを考えていることが大変励みになるが、これはモデル林にもつながってくると思う。また、山主への説明は難しいということ、何人かの方から協力したいという意見を頂いている。人工林を自然に戻すことについては、洲崎さんから、技術的な議論をする研究会みたいなものがあった方がいいという意見があった。（蔵治）
  - ➢ 随分前に針広混交林の研究会に出たが、日本海側での研究事例が多く、雪害で人工林の木が倒れた後に広葉樹が自然にまざってできているケースが多いということだった。そのため、どのくらい間引きをすれば広葉樹が生えるのか、それは落葉樹も入るものなのかとかを研究した例はすごく少ないと思うので、ぜひそれをここで示せるようにしたいと思う。（洲崎）
- 雪害の件は、根羽村でも上のほうで斜面の崩壊が起きやすいところがあって、そういうところは広葉樹林化している。広葉樹林化することによって人工林の中の生物多様性が高まるというプロセスが実際に起こっているので、崩れやすいリスクも、区分していく上での一つの指標になると考えられる。もう一つ、もうかるかもうからないかという区分も一つはあると思う。水源涵養機能を果たすか果たさないかという指標もあると思うし、林業としてやっていけるところなのかどうかを見きわめるのも一つの区分のやり方になると思う。特に最近は、間伐の補助金とかも 50ha まとまっていないといけないという制約もあるわけで、林業経営者にとってはかなり厳しい形になると思うので、そのあたりとどう折り合いをつけていくのかというところを提案していただきたい。（城田）
  - ➢ 非常に難しいチャレンジだが、地域の事情とかも加味しながら、広い範囲の人たちが合意できるような区分ということになっていくと思う。そこはこの流域圏懇談会というものの抱えている本質だと思う。基本的に流域というものは基本的には下流と上流の闘いの場にならざるを得ないので、コンフリクトが発生すると考えるのがむしろ自然な部分もある。だから、この課題を突き詰めていくとそういうことに突き当たるおそれはあるが、それを乗り越えた先にはものすごい未来が待っているかもしれないということを期待してこれに取り組みたい。ここを日本全体の流域圏森林管理のモデルにしたいと意気込んでいる。（蔵治）

○木づかいガイドラインについて

- 流域材を使った製品のカタログがついているといいとか、各市町村の担当者が１人ずつ、製材所、建築者、そういった方もメンバーに入れてという提案はそのとおりだと思う。（今村）
  - 豊田市役所では、流域材というか豊田市の木材をふんだんに使われている。豊田市では、方針を策定されて、森林課の中にも木づかいの担当をされている方もいる。下流の大きな市については、もう少し県という枠を越えたような大胆なことに打って出てほしいので、そのための種をまいていくために、そういう人たちがお互いに知り合いなってもらうだけでも大分違うのかなという気がするので、ぜひそういう提案をしたい。（蔵治）
- 原田さんからは、流域圏の共通認識を再確認するイベントとかが必要というコメントを頂いた。（今村）
  - 豊田市の木づかい方針には、原則として国産材を使う、ただし地域材、豊田市産材を優先して使うという書きっぷりになっているが、愛知県の木づかいプランは県産材を使うと書いてある。そこで、矢作川流域材を使おうと思うと、そんなところの議論が必ず出てくるかなと思うので、乗り越えるには、流域で何か物を考えないといけないと思う。（原田）
- この流域圏懇談会で毎年のように流域圏をアピールするようなシンポジウムをやるというのも考え方だと思う。（蔵治）
  - 流域の産物に触れたり、買ったりすることもできると楽しい。（洲崎）
- これからのステップとして、懇談会主催でいいと思うが、流域圏シンポジウムみたいなものを企画して、何かそれをアピールする機会を持っていただくといいかなと思う。昔は、昭和 40 年代にできた矢作川流域開発研究会という組織があって、毎年テーマを変えて矢作川シンポジウムというのをやっていたが、それが矢作川流域振興交流機構に変わっていく過程で、その事業をやらなくなったことが今や流域圏がこの地域に認識されなくなった一つのきっかけだったと思う。（原田）
- 松井さんからは、とよた森林学校の木づかいのアイデアを頂いた。（今村）
  - とよた森林学校では、木づかい講座というのが毎年いろいろな形を変えて、今年は炭焼きの講座というのを企画している。その中で、根羽村森林組合さんに一昨年ぐらいからお世話になっているが、クラフトの話もあるし、木工に利用することもできるし、健康とか保健とかそういう面で活用することもできるので、そういうところを、森林学校の中でも一般の市民の方たちを対象に PR していけたらと思う。（松井（保））
- 一般の市民への PR とかニーズを取り入れようというところで、山本さんから意見頂いている。（今村）
  - 中山間地側の見方と都市側の見方というのは違うと思う。それは融合していくものだが、全体として認識が高くならないと、要するに自分たちの森は何なのか、どう使われているのかという基本的な共通認識がなければ成立しない。それで、都会からのニーズの話は取材すればかなり出るが、田舎の側のニーズがすごく求められると思う。市場のニーズからいうとそぐわないかもしれないが、えこひいき的に地域再生だとか関わるのなら、そういう仕組みをつくっていくことが地域の活性化ではないか。提案

された内容は、確かに項目は多いけど、思想というか考え方としては非常にいいと思う。（山本）

- 洲崎さんから森林環境教育について話を。（今村）
  - 森が基本的にどういう機能を持っているかという話とか、いろいろな木があって、それがどういう名前でどう使われてきたかということを知ることで興味とか関心が増えていくので、とよた森林学校のようにコースにしてしまって、定期的にできるといいと思う。地道に森に興味を持つ人の裾野を広げるのには非常に効果的だと思う。（洲崎）
- 城田さんから、山の評価で一次産業、二次産業、三次産業の全ての側面からであるとか、地球温暖化とかいった視点で意見を頂いている。（今村）
  - 確かに林業は一次産業であって、その部分を外して物事を進めることはまずできないと思う。二次産業とどうつながっているのかというところも必要だし、森のことについてどれだけ知っている、そういう知識というのは商品になると思う。地球温暖化について、地域のものを地産地消的な形で使うこと自体が地球温暖化防止に貢献するという意識をもっとアピールしていければ、流域圏での活動というのがプラスになるというところがアピールできるのかなと考えた。（城田）
- 温かい励まし的な言葉が多かったように思う。また、項目とか絞り込みという話もあるので、どの項目をどのように、どのような方に一緒にやってもらうかとかを検討していきたいと思う。（今村）
- 来年度以降の活動について、具体的には難しい部分があるが、ブレーンストーミング的な意見交換にはできたと思うので、また明日も引き続き議論できればいいと思う。川とか海との連携についても、明日、引き続き議論したいと思う。（蔵治）

（５）その他

- 明日は午前中、朝 10 時から第８回矢作川森の健康診断の報告会が同じ会場であるので、ぜひ多くの方に聞いていただければと思う。その後、午後は第７回のワーキンググループの会議ということで、引き続き行いたいと考えている。（蔵治）

以上

矢作川流域圏懇談会「第１回山部会ＷＧ」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 4 月 28 日(土)
13:00 ～ 17:40

○開催場所：
【集合】根羽村役場
【訪問箇所】つたの滝、浅間神社周辺、桜の庭、グリーンハウス森沢、モデル住宅、作業道
【ＷＧ会場】根羽村森林組合

○参加者：２１名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】
１．現地見学
テーマ「根羽村のトータル林業」等の紹介
２．山部会ＷＧ
(1)根羽村森林組合からの説明
(2)意見交換

会議風景（１）

会議風景（２）

2. 主な会議内容

第１回地域部会ＷＧでは、林業立村をめざす根羽村の現状を現地見学した上で、山村再生に向けた意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 根羽村森林組合からは、「山村再生担い手づくり」「森づくり指針について」について具体的な提案があった（３ページ参照）。
- ○ 今後の進め方としては、山村再生担い手づくりでは、事例集づくりを先行的におこなっていくことが確認された。
- ○ 次回のＷＧは、５月１９日に岡崎（額田）で開催することを確認した。

矢作川流域圏懇談会「第２回山部会ＷＧ」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 5 月 19 日(土)
10:00 ～ 16:30

○開催場所：
【集合】岡崎市森の総合駅
【訪問箇所】野生獣解体施設、優良施業林業地
【ＷＧ会場】千万町茅葺屋敷

○参加者：１９名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】
１．岡崎市の環境施策
２．現地見学
(1)野生獣解体施設
(2)優良施業林業地
３．山部会ＷＧ
(1)旧宮崎村の山づくりのあゆみ
(2)岡崎市森林整備ビジョン
(3)意見交換

会議風景（１）

会議風景（２）

2. 主な会議内容

第２回地域部会ＷＧでは、岡崎市の森づくりに関わる現状について、取り組み事例の紹介や現地見学をした上で、山村再生や今後の森づくりに関する意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 山の担い手をどのように確保していくかということを中心に話し合いが行われた。その中では、山に愛着を持ってもらうこと、そのためには山の作業が小遣いになること、人との付き合いが大切であることなどが条件として挙げられた。
- ○ 次回の第３回ＷＧは、６月１６日に恵那市で、第４回ＷＧは、７月７日に豊田市で開催することを確認した。
- ○ ＷＧでは、まず一巡目は、現地見学などを通じて、それぞれの地域の実情や取り組みの把握を行い、２巡目から、「山村再生担い手づくり事例集」及び「森づくり・木づかいガイドライン」の具体的な検討を進めていくことを確認した。

矢作川流域圏懇談会「第３回山部会ＷＧ」（恵那市）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 6 月 16 日(土)
10:00 ～ 16:30

○開催場所：
【集合】奥矢作レクリエーションセンター
【訪問箇所】松下薪材間伐作業現場、道の駅ラフォーレ（えなの森林づくり間伐モデル林)、奥矢作木センター（NPO 法人福寿の里)、奥矢作レクリエーションセンター
【ＷＧ会場】庄屋の家(古民家再生第４弾)」

○参加者：２４名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】
１．現地見学
(1)松下薪材間伐作業現場
(2)えなの森林づくり間伐モデル林
(3) NPO 法人福寿の里
(4)奥矢作レクリエーションセンター
２．山部会ＷＧ
(1) NPO 法人「東濃森づくりの会」串原支部の取り組み
(2)上矢作・串原・明智の林業
(3) NPO 法人「奥矢作森林塾」の取り組み

集合写真

会議風景

2. 主な会議内容

第３回地域部会ＷＧでは、恵那市の森づくりに関わる現状について、現地見学をした上で、取り組み事例の紹介や山村再生や今後の森づくりに関する意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 森林組合と民間素材生産業者の立場から話題提供があり、業界として林業が再生し、広範囲の人工林を健全に保つためには、ボトムアップの計画づくりや、森林組合と民間素材生産業者間に競争原理だけではなく共存共栄の原理が必要であるとの意見が出された。
- 次回の第４回ＷＧは、７月７日に豊田市で開催することを確認し、集合場所、時間、会場の手配、お弁当の持参の有無について、後日メールで告知する。
- この集まりを第 4 回ＷＧの準備会とし、ＷＧの構成・内容について話し合った。その結果、第４回ＷＧは 2 部構成とし、森づくりとして森林行政と森林組合の取り組みについて豊田市が担当する。担い手づくりについて、洲崎氏が担当し、市や民間が自発的に行っている様々な取り組みを紹介する。
- 今後、このメンバーのメーリングリストを作って、情報交換できるとよい。

矢作川流域圏懇談会「第４回山部会ＷＧ」（豊田市）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 7 月 7 日(土)
10:00 ～ 16:30

○開催場所：
【集合】新盛集会所「扶桑館」
【訪問箇所】「あいち森と緑づくり事業」による間伐地、加塩地域（「団地化」と「利用間伐」）、あさひ製材協同組合、板取の家
【ＷＧ会場】豊田市里山くらし体験館「すげの里」

○参加者：１９名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

１．現地見学
(1) 「あいち森と緑づくり事業」による間伐地
(2) 加塩地域（「団地化」と「利用間伐」）
(3) あさひ製材協同組合
(4) お試し体験住宅「板取の家」

２．山部会ＷＧ
(1) 豊田市の森づくりの取り組み
(2) 豊田森林組合の概要と取り組み
(3) 農山村振興に関する市民・ＮＰＯ等の取り組み
(4) 豊田市チャレンジガイドについて

集合写真

会議風景

2. 主な会議内容

第 4 回地域部会ＷＧでは、豊田市の森づくりの現状について、現地見学をした上で、森づくりや山村振興の取り組みを紹介した上で、各取り組みに対する意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 次のステップに向けて、木材の活用とか定住とかテーマを設定し、アイデア提案することや流域圏の若者（森林技術労働者など）が集まる場をつくるなどの提案が出された。
- ○ 蔵治座長より、全体会議の出席者の提案があり、承認された。
- ○ 今後の予定として、第 5 回ＷＧ（根羽）は、8 月 24、25 日に実施する。また、第 6 回（岡崎）は 10 月 19、20 日（後日 26、27 日で再調整）、第 7 回（恵那）は 11 月 16、17 日、第 8 回（豊田）は、12 月 14、15 日を予定し、日程を調整することとなった。

矢作川流域圏懇談会「第５回山部会ＷＧ」（根羽・平谷）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 8 月 25 日(土)
9:00 ～ 15:00
（懇親会は前日 19:00～開催）

○開催場所：
【集合】グリーンハウス森沢
【ＷＧ会場】グリーンハウス森沢
ネバーランド
【現地見学】根羽村森林組合
（木材乾燥施設など）

○参加者：２４名（懇親会）
２０名（ＷＧ）

(2)内容

【プログラム】
１．懇親会（24 日開催）
２．山部会ＷＧ（25 日開催）
(1) 全体会議の開催報告
(2) 伊那谷の森で家をつくる会の取り組み
(3) 山村再生担い手づくり事例集について
(4) 矢作川流域圏森づくり・
木づかいガイドラインについて
３．現地見学（有志のみ）
(1) 根羽村森林組合

ＷＧ風景（グリーンハウス森沢）

ＷＧ風景（ネバーランド）

現地見学（根羽村森林組合）

2. 主な会議内容

第 5 回地域部会ＷＧでは、24 日に懇親会を行い、25 日に山村担い手事例集と森づくり・木づかいガイドライン作成の進め方について意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 「山村担い手事例集」については、丹羽氏と洲崎氏が中心となり、まずは座談会を開催することになった。また、事例集の作成にあたり、これまでのＷＧ資料をジャンル別に整理することになった（洲崎氏が対応）。
- 「森づくりガイドライン」については、まずは、東京都水道局が所有している水源林の経営計画の勉強を行うことになった（説明は蔵治座長が対応）。
- 「木づかいガイドライン」については、今村氏を中心に検討していくことになった。
- 今後の予定として、第 6 回ＷＧ（岡崎）は 10 月 26、27 日で開催、11 月 16 日は 15:00～第３回山の地域部会、17 日は午前中に森の健康診断の報告会、午後に第 7 回ＷＧ（恵那）を行うことになった。また、第 8 回ＷＧ（豊田）は、12 月 14、15 日を予定していたが、調整がつかないため、１月 11、12 日で調整することになった。

矢作川流域圏懇談会「第６回山部会ＷＧ」（岡崎）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 10 月 27 日(土)
9:00 ～ 15:00
（懇親会は前日 18:00～開催）

○開催場所：
【集合】くらがり渓谷コテージ
【ＷＧ会場】農村環境改善センター

【現地見学】
デイヴィット・ストーンズ氏自宅
（イギリス人が選んだ里山の暮らし方）

○参加者：３０名（懇親会）
２６名（ＷＧ）

(2)内容

【プログラム】
1．懇親会（26 日開催）
2．山部会ＷＧ（27 日開催）
(1) 第２回 WG 開催報告
(2) 山村再生担い手づくり事例集について
(3)東京都水道水源林の管理について
(4)木づかいガイドラインについて
(5)次回の地域部会に向けて
3．現地見学（有志のみ）
(1) イギリス人が選んだ里山の暮らし方

懇親会で出された料理

ＷＧ風景（１）

ＷＧ風景（２）

2. 主な会議内容

第６回地域部会ＷＧでは、26 日に懇親会を行い、27 日に山村担い手事例集と森づくり・木づかいガイドライン作成の進捗状況報告及び意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 山村再生担い手事例集は、本日の議論で作成手法が例示され、その手法を用いて洲崎氏が担う部分と、Ｉターンミーティングから生み出していくものの２通りで進めていくことになった。Ｉターンは、１２月上旬までに開催するものとし、今年度は、事例集の骨子作成をめざすものとした。
- ○ 森づくりガイドラインは、法的な拘束力はないが、社会的なメッセージとして発信するような紳士協定的なものとし、流域圏住民が望む森林整備のイメージを明らかにすることを共有した。
- ○ 木づかいガイドラインは、ガイドラインのターゲット、位置づけが整理され、ガイドラインに盛り込むべき材料もそろってきたので、年度末までにどこに焦点を当てていくかという絞り込みまで行うものとした。
- ○ そのために、各担当者が次回 WG までにステップアップしたものを提示する。

矢作川流域圏懇談会「第７回山部会ＷＧ」（恵那）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 11 月 17 日(土)
13:00 ～ 14:30
（懇親会は前日 18:00～開催）

○開催場所：
【集合】こしざわコテージ
【ＷＧ会場】上矢作農業集落センター

○参加者：２２名（懇親会）
１９名（ＷＧ）

(2)内容

【プログラム】
１．懇親会（16 日開催）
２．山部会ＷＧ（17 日開催）
(1) 今年度の到達目標と第８回 WG までの到達目標について
(2) 来年度以降の活動について
(3) 川部会、海部会との連携について

ＷＧ風景（１）

ＷＧ風景（２）

ＷＧ風景（３）

2. 主な会議内容

第７回地域部会ＷＧでは、16 日に懇親会を行い、17 日に今年度の到達目標や今後の進め方についての意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 今年度の到達点としては以下のように決定した。
  - ➢ 山村再生担い手事例集は、第８回ＷＧにてメンバーを決めるということ、それまでに骨子を作成する。
  - ➢ Ｉターンミーティングは、若者ミーティングに名称変更し、12 月中に第１回を開催する。
  - ➢ 森づくりガイドラインは、第８回ＷＧまでに検討メンバーの呼びかけをできるような骨子を作成し、３月末までに組織づくりを目指す。
  - ➢ 木づかいガイドラインは、第８回ＷＧまでに４つの森林組合が集まって意見交換を行うこと、各県の木づかいの取り組みについて情報収集する。
- ○ 来年度以降の取り組み体制については、これまでの山部会ＷＧの間に個別作業ＷＧを開催し、その内容を必ず山部会ＷＧで報告、意見の反映を行う体制にする。開催頻度は、概ね山部会ＷＧ、個別作業ＷＧを各２ヶ月の頻度（なんらかの会議が１ヶ月に１回）開催することとした。
- ○ 川部会、海部会との連携は、まずはお互いことを知らないことが問題であり、その解決が必要であることを確認した。会議運営においても山川海の人間が集まってグループワークすることもいいのではといった提案があった。また、具体的な連携のあり方は、引き続き第８回ＷＧの中で検討することを確認した。

矢作川流域圏懇談会「第８回山部会ＷＧ」（豊田市）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 25 年 1 月 12 日(土)
9:00 ～ 14:30
（懇親会は前日 18:00～開催）

○開催場所：
【懇親会】あすけ里山ユースホステル
【ＷＧ会場】豊田市役所足助支所
【見学箇所】豊田森林組合木材センター
２戸２戸住宅造成予定地
農山村定住応援住宅

○参加者：２０名（懇親会）
２５名（ＷＧ）

(2)内容

【プログラム】
１．懇親会（11 日開催）
２．ＷＧ（12 日開催）
(1) 山村再生担い手づくり事例集について
(2) 若者ミーティングについて
(3) 森づくりガイドラインについて
(4) 木づかいガイドラインについて

会議風景

現地見学（木材センター）

2. 主な会議内容

第 8 回地域部会ＷＧでは、今年度の到達点に向けての進捗報告と課題解決方法に対する意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 「山村再生担い手事例集」については、恵那担当を丹羽氏に決定し、残る岡崎担当を今年度中に調整することになった。事例集の骨子は、前回作成したものを今年度成果とすることを確認した。
- 「若者ミーティング」は、名称を「矢作川流域山村ミーティング」に決定した。ミーティングは、まずはテーマを設定せずにそれぞれの思いを意見交換する場として位置づけることを確認した。なお、次回は 1 月 23 日に開催する予定である。
- 「森づくりガイドライン」は、骨子を修正し、区分作業に向けた指標の提案、解決手法の提案、ＷＧメンバー（案）が提示され、こちらの内容で行っていくことになった。
- 「木づかいガイドライン」については、森林組合同士の話し合いを通じて、まず行っていきたい検討内容を以下の４つに絞り込んだ。また、各県の情報収集を通じて担当者との協力体制を構築した。
  - 流域で使いたい魅力的な木の製品、それを生み出す魅力的な仕組みと活動（提案）
  - 今進められている木づかいのための様々な研究テーマ・成果・研究者紹介
  - 流域の木づかいのヒントとなる様々な木づかい事例
  - 木の利用推進による持続可能な地域づくりに向けての提案